

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成 24 年 3 月に策定した『練馬区障害者計画・第三期障害福祉計画』（計画期間：平成 24 年度から平成 26 年度）の見直し、次期練馬区障害者計画・第四期障害福祉計画を策定するため、障害のある区民の意向を把握し、計画策定の基礎データとして活用することを目的として実施した。

2 調査対象

身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、自立支援医療制度（精神通院）の利用者、難病医療費助成制度の申請者から、合計 3,350 名を無作為抽出した。また、施設入所者の意向についても把握するため、入所者のうち、合計 150 名を無作為抽出し、あわせて 3,500 名に対して調査を行った。

(単位：人)

区 分	身体障害者手帳	愛の手帳	自立支援医療制度（精神通院）利用者	難病患者	施設入所者	合計
対象者数	19,476	4,050	10,063	4,291	430	38,310
調査数	1,150	600	1,000	600	150	3,500

(注) 母数は、平成 25 年 3 月 31 日現在である。

【身体障害者数内訳】

(単位：人)

	対象者数	調査数
視覚障害	1,520	200
聴覚平衡機能障害	1,731	200
音声言語機能障害	242	50
肢体不自由	9,822	400
内部障害	6,161	300
合 計	19,476	1,150

3 調査時期

平成 25 年 12 月

4 調査方法

郵送配布・郵送回収

5 回収状況

区 分	対象者数	有効回収数	有効回収率
身体障害者	1,150	558	48.5%
知的障害者	600	248	41.3%
精神障害者	1,000	434	43.4%
難病患者	600	346	57.7%
施設入所者	150	100	66.7%
合 計	3,500	1,686	48.2%

6 主な調査項目

【基本属性】

- ・性別、年齢、調査票の記入者、居住形態、同居者、収入源、障害の程度、各種手帳所持の状況、発達障害や高次脳機能障害等の診断状況 等
- ・（身体障害者手帳所持者のみ）障害の種類
- ・（精神障害者のみ）診断名
- ・（難病患者のみ）罹患している主な難病の疾患名

【介助・援助者の状況について】

- ・主な介助・援助者、介助・援助の内容、介助・援助者が不在のときに希望する対応、必要とする介助・援助の有無

【日中の過ごし方について】

- ・日中の主な過ごし方

【教育について】

- ・通園・通学先、通園・通学に際し充実してほしいこと

【雇用・就労について】

- ・（就労者のみ）就労形態、職場の所在地、1年間の就労収入、仕事をする上での不安や不満
- ・（不就労者のみ）今後の就労意向、希望する就労形態、働きたいが働けないと思う理由
- ・働くために整っていることが大切だと思う環境

【外出や社会参加の状況について】

- ・外出の際に困っていること、今後してみたい活動、活動に参加するために必要な支援

【健康状況や医療について】

- ・（身体障害者・知的障害者のみ）かかりつけ医の有無
- ・（精神障害者・難病患者のみ）医療の受診形態、入院歴の有無と入院期間
- ・（難病患者のみ）通院する際の介助の必要性
- ・健康管理や医療で困ったことや不便に感じたこと

【相談や情報の入手について】

- ・悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先、福祉サービスなどの情報の入手先
- ・（身体障害者のみ）コミュニケーション手段・機器等の利用状況 等

【福祉サービスについて】

- ・最近1年間に利用した福祉サービス、必要だと思うサービスの利用状況、必要だと思うサービスを利用できていない理由
- ・今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービス

【将来について】

- ・希望する日中の過ごし方、希望する暮らし方、練馬区での定住意向
- ・（施設入所者のみ）必要な手助けや環境、練馬区への居住意向

【災害対策について】

- ・最寄りの避難拠点の認知度、最寄りの避難拠点まで自力避難の可否、災害に備えて準備していること、災害に備えて必要な対策

【権利擁護について】

- ・差別や人権侵害を受けていると感じることの有無、地域での障害に対する理解の感じ方、障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なこと
- ・成年後見制度の認知度、成年後見制度の利用意向、成年後見制度を利用しない（したくない）理由

【障害者施策全般について】

- ・障害者施策を充実するために必要なこと

【介助・援助者の意向】

- ・介助・援助するにあたって困っていること、将来、本人に暮らしてほしい場所 等
- ・（施設入所者のみ）地域で暮らすことの可能性、地域で暮らすために必要な支援や環境

7 報告書を利用するにあたって

- 図・表中のnとは、基数となる実数のことである。
- 回答はnを100%として百分率で算出している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 図・表中の—は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 質問において、年齢別、障害の程度別など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果の図・表については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- 障害間比較または前回調査（平成22年度実施）との比較のため、便宜上表記を統一している場合がある。なお、障害間比較は知的障害者、施設入所者対象の調査票表記を身体障害者等対象の調査票に統一しており、前回調査の表記は今回調査の表記に統一している。
- 前回調査の概要は以下のとおりである。なお、精神障害者については、今回の調査対象とは対象が異なるため、それを踏まえた取り扱いが必要である。

○前回調査の概要

調査対象は、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者から、合計5,000名を無作為抽出して調査を実施した。また、施設入所者の意向を把握するため、合計100名を無作為抽出して調査を実施した。内訳は次のとおりである。

■調査対象

(単位：人)

区分	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉手帳	施設入所者
手帳所持者数	18,672	3,655	3,739	412
対象者数	3,600	650	650	100

(注) 母数は、平成22年3月31日現在

- 今回の基礎調査報告書では、身体障害者手帳所持者を「身体障害者」、愛の手帳所持者を「知的障害者」、自立支援医療制度（精神通院）を「精神障害者」、難病医療費助成制度の申請者を「難病患者」と区分している。
- グラフの下にある数字は、各設問の選択肢番号を表している。

(例)

